

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立多米小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 440-0027
豊橋市多米中町二丁目27番地の1

E-mail tame-e@toyohashi.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 386名 女子 353名 合計 739名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「伝えよう未来へ！多米の自然のすばらしさを」を活動テーマとして、ESDを自然豊かな地域に対する愛着を育て自然を守るための具体的な方策を探るものと捉えている。ESDの実践を通して、問題に気づき、仲間とともに解決しようとする力の育成を目標とした。

具体的には、校区を流れる朝倉川と内山川の豊かな水とそこに生きる多様な生き物との関わりを柱に、①水辺に生きる魚や虫たちと関わる学習、②河川敷の清掃美化活動、③稲作に係わる体験学習、④溶岩プレートの設置による自然回復活動を行った。

① 水辺に生きる魚や虫たちと関わる学習 ～川となかよし(1,2年)～

子どもたちは、朝倉川のどんな所にどんないきものがいるのか調べ、たくさんのおきものがいることに驚いた。「生き物と仲よくしたい」と、それぞれの生き物に適した飼育環境をつくり、観察した。この活動を通して、たくさんのおき物がいる朝倉川が大好きになった。

② 河川敷の清掃美化活動 ～朝倉川を美しい川にしよう（全校）～

朝倉川530運動に取り組み、土手や川の中にたくさん捨てられていたビニールや家庭ごみを拾った。「自然豊かで大好きな朝倉川を汚す人がいるならば、その分私たちがきれいにしていこう」という思いをもった。

③ 稲作に係わる体験学習 ～多米の土と水の恵みに感謝しよう（5年）～

バケツに運動場の土を入れて育てた稲より、田んぼに植えた稲は格段に多くの米ができた。農業委員の福井さんに、多米の土と水がおいしい米を育てると教えてもらった。田植えから稲刈り、精米までを体験し、自然への感謝と米を大切にしたいと思う気持ちが強くなった。

④ 溶岩プレートの設置による自然回復活動

～自然を取り戻せ！溶岩プレート（6年）～

護岸工事で川岸がコンクリートでおおわれたことで、一時、ホタルが激減した内山川。溶岩プレートを取り付ける活動が続けることで、コンクリートばかりだった川岸に草が生え、ホタルも数を増やした。安全も自然も、工夫すればどちらも守ることができるということを実感した。



① 川となかよし（1, 2年）



② 朝倉川を美しい川にしよう（全校）



③ 多米の土と水の恵みに感謝しよう（5年）



④ 自然を取り戻せ！溶岩プレート（6年）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(地域への愛情を深め、大切にしようとする態度)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESDカレンダーを作成し、他学年との交流および学習の蓄積を意識できるようにしている。例えば、1年生では川の生き物を捕まえて親しむ活動を行うが、2年生ではそれぞれの生き物に適した環境の違いを調べたり観察したりして飼育できるようになる。また、3年生で「内山川ホタルを守る会」の方の話を聞き、洪水から地域を守るための護岸工事をしてコンクリートで川岸を覆ったことでホタルが激減したことを学ぶ。それが、6年生になるとホタルをよみがえらせようと、ホタルを育てて川に放すのではなく、川岸を自然に近い状況にしていくことで、ホタルが飛び交う内山川を再生するための活動を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各学年の担当者が集まりESDカレンダーを作成し、他学年との交流および学習の蓄積を意識できるようにしている。例えば、1年生では川の生き物を捕まえて親しむ活動を行うが、2年生ではそれぞれの生き物に適した環境の違いを調べたり観察したりして飼育できるようになる。また、3年生で「内山川ホタルを守る会」の方の話を聞き、洪水から地域を守るための護岸工事をしてコンクリートで川岸を覆ったことでホタルが激減したことを学ぶ。それが、6年生になるとホタルをよみがえらせようと、ホタルを育てて川に放すのではなく、川岸を自然に近い状況にしていくことで、ホタルが飛び交う内山川を再生するための活動を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動の質の向上のための学校活動の評価の方法・具体的内容としては、活動に関わる調べ学習や活動に対する感想などのポートフォリオ、活動の様子の見取りおよび記録、活動後のまとめや発表内容により行った。

成果として、子ども一人一人が意欲的に取り組んでいること、主体的な学習の中で身につけた知識を使って問題解決のための方策を考えられたことが確認された。

課題として、学習の成果を広く地域に伝えることがなく、学校内に対しても、学年が違ふとどのような活動をしているのか十分には知られていないことが挙げられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ユネスコスクール豊橋大会にて、ポスターセッションを行った。1年生から6年生までの活動のうち、自然環境に関わるものをまとめ、実践報告および質疑応答を行った。発表の機会があることで、自分たちの実践を振り返り、学んだ内容と活動の意味が一層明確に認識されたように思われる。また、他学年の活動内容と自分たちの活動との関わりに気づくことができた。発表をすること、人と関わることは、子どもの成長につながると実感した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

- ・朝倉川530運動
- ・「内山川ホテルを守る会」の方による講演(3年)を依頼したり、溶岩プレートを取り付けによる自然環境回復活動(6年)を共に行ったりしている。
- ・稲作に係わる体験学習では、校区在住の豊橋市農業委員/愛知県農村生活アドバイザーの方のアドバイスを受け、田植えや稲刈りを行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

ユネスコスクール豊橋大会において、ポスターセッションを行う。
代表の6年生が、本校の1年生から6年生が行ってきた活動の内容と、その成果を発表した。また、参加した児童たちが、他の小中学校の特徴ある取り組み内容を聞き、大いに興味をもった。
今後、似た活動をしている学校と情報交換をすることができれば、さらに多角的な視点が得られると考えられる。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

「多米の土と水の恵みに感謝しよう（5年）」では、校内の数か所の土を使いバケツ稲育成に取り組んだことで、収穫の差が顕著となり、土の大切さを強く実感できるなど認識が深まった。また、保護者にボランティアとして活動を支援してもらったり、自宅で相談し米料理を作ったりするなど、家庭を巻き込んだ活動をしたことで、問題意識がさらに高まる面も見られた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

豊かな自然・歴史ある風土・国際色豊かな地域という校区の特徴を生かした実践をさらに推進する。また、他学年との交流や学習の成果を発表し合うことを念頭に置いた活動をすすめる。

環境問題・生物多様性に関わって、1年生は川の生き物とふれあい、2年生ではそれぞれの飼育環境を考えて観察、3年生はホタルに焦点を当てた学習と観察を行う。4年生は河川を含むゴミ問題に取り組み、環境美化活動をすすめる。6年生は、生活の安全と自然回復を目指した活動を行う。

生産・消費の問題では、4年生のゴミ問題、5年生の稲作を通して、持続可能な社会のあり方を模索していく。